

第5章

森林親和運動としての木育の成果

第1節 | くまもとのづくりフェアなどの成果

1.1 はじめに

「くまもとのづくりフェア」は、熊本ものづくり塾が事務局となり熊本大学や熊本県技術・家庭科教育研究会、一般ボランティアが共同で開催している。また、本事業の一部は熊本県農林水産部林業振興課より資金提供を受けている。この他、熊本ものづくり塾は県内3カ所で定期的なものづくり教室を行っている [田口 2010a, 2010b]。

本節では、「くまもとのづくりフェア」などのものづくり教室において、木育の目的と照らし合わせた場合の成果について検討する。具体的には、「くまもとのづくりフェア」などへの参加状況と、木材利用意識および木材利用行動との関係を明らかにすることを目的に、アンケート調査を行う。なお、本調査は以下の2つの調査からなる。

第1の調査は、2009年6月から7月にPTA活動や地域活動として実施されたものづくり教室に参加した子どもおよびその保護者などに実施したものである。これらの対象者には、ものづくり教室を実施する前に調査したことから、木育をほとんど体験していない対照群と設定することができる。第2の調査は、熊本ものづくり塾が毎月実施しているものづくり教室に参加している子どもおよびその保護者を対象としている。熊本ものづくり塾は、2009

年度より2年間ものづくり教室を県内3ヵ所において定期的で開催（年間10回・通算20回程度実施）している。こちらの対象者は、木育を体験している群とする。

これらの調査結果を比較することにより、木育による木材利用に関する意識および行動変様に対する影響について検証する。

1.2 調査対象者

1.2.1 木育未経験者群

熊本県内でPTA活動や地域活動として開催されたものづくり教室に参加した子どもおよび保護者を調査対象とした。2009年6月から7月にかけて調査対象者に、年齢、性別、木材の利用に関する意識、木材利用行動などについてアンケートによる調査を行った。地域ごとに分類すると、県北（山鹿市・和水町）42人、熊本市110人、県南（八代市・水俣市）80人、合計232人である。年齢ごとの内訳は、6～15歳：94人、16～25歳：25人、26～35歳：36人、36～45歳：68人、46歳以上：9人であった。性別で見ると、男性：78人、女性：154人であった。

1.2.2 木育（ものづくり教室）経験者群

熊本ものづくり塾が主催するものづくり教室の受講者およびその保護者を調査対象とした。2011年2月から3月にかけて調査対象者に、年齢、性別、木材の利用に関する意識、木材利用行動などについてアンケートによる調査を行った。地域ごとに分類すると、和水町22人、熊本市33人、八代市28人、合計83人である。年齢ごとの内訳は、6～15歳：46人、26～35歳：4人、36～45歳：25人、46歳以上：8人であった。性別で見ると、男性：35人、女性：48人である。

調査対象者に対して、最近の2年間（24ヵ月）に実施されたものづくり教室やものづくりのイベントの参加回数により、1～4回を「参加回数少」集団、5回以上を「参加回数多」集団と分類し集計を行った。それぞれの内訳は、子どもでは「参加回数少」が19人、「参加回数多」が27人、大人では

「参加回数少」が17人、「参加回数多」が20人であった。なお、ものづくり教室に自らの意志または保護者の意向により参加した対象者であるため、「ものづくりに対する意欲」などについては、当初から高い可能性があることを勘案し考察することが求められる。

1.3 調査の内容

調査対象者に実施したアンケートの内容を巻末の資料5.1に示す。対象者に森林の働きや木材の利用意識、利用行動、ものづくり教室参加による行動の変様について、選択式で回答させた。

1.3.1 木や森林の知識およびものづくりへの意欲

木や森林の知識およびものづくりへの意欲に関する調査結果が、表5.1である。ここでは、子どもと大人について、木育の経験の有無により分類している。本表より、「木を植えて、切って利用し、また植えることは良いこと」、「木材を利用することは、森林づくりにつながる」については、子ども、大人とも、4ポイント中3ポイント以上の高い値を示した。木育の経験の有無により分析した場合、木育経験のある対象者が、いずれも高い値を示した。また、「木材を使ったものづくりにもっと取り組みたい」についても同様に高く、意欲においても若干であるが木育経験者が高い値を示した。

以上の結果から、木育の経験は木や森林に関する知識やものづくりへの意欲の向上に効果があることが明らかとなった。なお、ものづくりへの意欲の分析については、今後詳細な検討が求められる。

1.3.2 木材利用に関する意識

木材利用に関する子どもと大人の意識についての調査結果が、表5.2および表5.3である。なお、木育経験のある対象者については、2年間で1~4回の経験者を「木育経験少」、5回以上の経験者を「木育経験多」に分類している。

表5.2より、子どもが家具を購入する場合、木製品を選ぶ割合が、木育経